

芸術学部の歩み紹介

中央区 崇城大ギャラリー再開

崇城大関係や市民らの発表の場として親しまれた「崇城大学ギャラリー」（熊本市中央区花畑町）が1日、再建工事を終えて約3年ぶりに「SOJOGALLERY」として生まれ変わった。

初回展覧会として、創設20年を迎えた同大芸術学部の歩みを、同学部1期生で同学部美術学科准教授の日本画家佐藤和歌子さん（41）の制作の軌跡に重ねて紹介している。7月11日まで。

展覧会は「画学生か

ら日本画家へ」と題して、佐藤さんの入学時から近年までの作品を中心に、同僚や後輩、恩師らの絵画、彫刻などとともに31点を並べた。佐藤さんは人間と動植物との関わりを細やかな筆致と豊かな色彩で描き、自然の脅威などを追求。他の作品とともに多彩な人材を輩出してきたことを知ることができる。

「多くの人たちと制作できた幸せな20年が凝縮された企画」と佐藤さん。勝野眞言・芸術学部長（67）は「各自自分を振り返る機会に



崇城大芸術学部1期生で、同学部准教授の佐藤和歌子さん（左）の作品を中心に、同学部20年の歩みをたどる企画展「画学生から日本画家へ」 熊本市中央区

はエネルギーを費やしてほしい」と話している。

「SOJOGALLERY」の貸し出しは県内の学校関係に限る。（魚住有佳）